

～あした、転機になあれ！～

笑いから... 楽さびら。



紀夕 (きき)

哲學家。那覇市出身。1998年に早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修を卒業。「自ら考え、自ら動く力を磨く社員研修」との依頼を受け、「哲学のチカラを、笑顔のチカラに」をテーマに、さまざまな企業現場でサポートを行っている。特に「若手リーダー・女性スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくり」を哲学する研修は、好評。現在は、沖縄の表現で「Let's 哲学」を意味する「哲学さびら。」を合言葉に、沖縄発で職場に哲学習慣・風土を広めるべく活動を展開中。

職場を元気にする哲楽レシピ その二

「3つの『ない』」に、負けない！

変われる職場には
笑顔とゆとりがある

変われる人と変われない人がいる。そして、変われる職場と、変われない職場がある。

多くの職場とそこで働く人と向き合う日々の中で、そう感じています。変われない職場では、共通の声がありました。それは、変われない理由としての「3つの『ない』」。

- 1 「お金」がない。
- 2 「時間」がない。
- 3 「人手」がない。

だから：動き出せないという理由です。これは、驚くほど共通しているのですが、変われる職場では、この声は出てきません。お金・時間・人手については同じ条件なのに：とて不思議です。

変われる職場のリーダーは「できない理由をつければ、いくらでもあるから」と軽やかに笑っている印象があります。私に研修のご依頼を下さった社長の言葉を思い出しました。「笑顔があれば売り上げが伸びるか」と聞かれたら、それはよくわからない。でも、数字が良い店を見ると笑顔があるんですよ。だから、笑顔は大事だと思います。

笑顔は、ゆとりの表れのひとつ。ゆとりがあるから笑顔になるのか、笑顔があるから、ゆとりが生まれる

のか：いずれにしても、つながっていることは確かだと感じます。

「笑顔の輪」は
人を引き寄せる

お客さんでも部下でも同僚でも、笑っている人のところに近づいて来るようです。売場で、スタッフの方々と立ち話のようなミーティングをしていると、お客さんが話しかけてくる確率がとても高いことに気づきました。

通常は、スタッフ同士の輪の中には入りづらいものですが、そこにオープンな良い空気があると、人を引き寄せる力に変わるようです。

笑顔の輪には誰でも加わりたくないので、笑顔の輪は「どんな人も迎えてくれるwelcome感」があるのだと思います。「いらっしやいませ」という言葉よりも、相手を受け入れる力があるのではないのでしょうか？

「あなたの笑顔はいいね」「紀夕さんの笑顔を、スタッフに見せたいから」「うちのスタッフにも、あなたのように笑顔で接客してほしい」と、これまでに笑顔について本当に多くのコメントをいただき、そのたびに、笑顔について現場を観察し、声を聞き、哲楽してきました。その結果、笑顔の力の奥深さを知り、ますます関心と謎が深まるばかりです。

選べる場所から
スタートしよう！

スマイル0円、という言葉が流行った時期がありました。笑顔をどんなに褒めてもらっても「なんんだ、0円かあ」と思っていました。が、スマイルが0円であるのは、コストの話だと気づきました。その効果は、計り知れない価値があるのだと感じます。だからこそ、現代のさまざまな職場で笑顔の大切さに注目が集まっているのでしょう。

同じことを話し合うにも、笑顔が生まれるくらいの軽やかさで話すと声やアイデアが出やすくなります。

そういえば、ガンの患者さん向き合っているプロの方々や、ご自身がガンである方の明るさに驚いたことがありました。笑顔は「何かを乗り越えるための力」になってくれるのかも知れません。暗がりを照らしてくれる灯りのように。人間が持っている自家発電システムの一つだと思います。

「ない」を理由にして、せっかくの自家発電システムを止めていませんか？「ない」という状況を、あきらめる理由にするのか、知恵を出さずにつけにするのか：そこが分かれます。多くの現場を見て、そう感じています。

「とらえ方・向き合い方」は選べる。だから、選べないことに立ち止まらずに、選べる場所からスタートしよう！と考えるようになりました。それが、私が「ない」に負けない工夫のひとつ。調子が下がってくるのと「ない」の順番が増えてくるので、自分のコンディションを覚えてくれる要素でもあります。

あなたと、あなたの職場は、いかがですか？

あした：転機に、なあれ！

まずは... 笑顔から
スタートしませんか？

